留学部門奨励金
（経済学部　2021 年 3 月卒業）

甲南大学で見つけた新たな可能性

大学生活 4 年間を振り返って私が一番に感じることは、この期間に私が挑戦したこと、決断したことは全て今につながっているのだということです。「在学中に海外留学をする」という目標を持ち、2017 年 4 月に甲南大学に入学した私は、その後の 4 年間で多くの挑戦をし、その度に困難に立ち向かい、そして様々な決断をしてきました。そして今、海外の大学院に進学するという目標を持って、甲南大学を卒業しようとしています。ここでは、今の私へと導いてくれた大きな二つの経験について書きたいと思います。

一年生の夏休み、私は初めて一人海外で 2 週間を過ごしました。学内のプログラムである海外ボランティアに参加するためです。活動内容はサンフランシスコの複数のＮＰＯで貧困に苦しむ人々に食糧配給や必要物資を渡すというものでした。そこで気づいたことは格差の存在だけではなく、特に有色人種のお年寄りのホームレスが多いことから、格差にはその背景で複数の原因が関係していること、そして私がボランティアをするだけでは格差、貧困問題、不平等といった社会問題の何の解決にもつながらないことでした。社会問題に対して自分にはどんなことができるのかを確かめたかった私にとって、この気付きは残酷なものでした。自身の無力さを感じ、それまでＮＧＯなどの国際機関で働きたいと思っていた夢が、だんだん薄れていきました。それでも、その 2 年後に実現したカナダのビクトリア大学での交換留学で、その夢が自分の目標であることを再確認することになりました。

3 年生の後期、留学が開始しました。そこでの 8 ヶ月の生活は、これまでで一番記憶に残る、そして多くを学んだ素晴らしいものでした。初めて国籍、言語、人種といったカテゴリーの中でマイノリティーとなり、自分がこれまで世界を見てきた視点が変わりました。ジェンダースタディーズで学んだ「インターセクショナリティー」とは、物事を判断する際，物事の背景に隠れている多くの事実に配慮しなければならないという考え方です。社会問題をある一つの側面からだけでなく、相互に作用する様々な側面を考慮する必要性を学びました。

帰国が後 1 ヶ月後に迫っていた時、急遽コロナウイルスの影響で帰国することになりました。当たり前にあると思っていた残りの時間が奪われ、先の計画は思いも寄らないことで変わってしまうのだということを認識させられました。そんな時、私が思ったことは、まだまだ私には勉強すべきことがあり、その内容とは、私が様々な社会問題の解決に貢献できる人間になるための勉強でした。ボランティアをした頃に考えていた将来、国際機関で働くという夢は、再び私が次に達成したい目標となりました。私にはそれを実現できる可能性があると思えました。

現在、私は海外の大学院に進学することを目標としています。甲南大学での 4 年間で得た経験、そして出会った全ての人々が、私が今の道を進むためのきっかけをくれました。高校生の頃、口に出すことすら躊躇していた国際機関で働くという夢は、今では実現するための目標となっています。これほどまでに自分を成長させる環境を与えてくれた甲南大学に感謝しています。この卒業を新たな出発点として、目標の達成のために精進します。